

令和5年度 第1回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和5年6月22日（木） 10時00分～11時30分

2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室301 及び ZOOMによるウェブ参加

3 出席委員及び欠席委員の氏名

(1) 出席委員（6名）

益川 浩一 委員長（岐阜大学地域協学センター長・教授）
江良 友子 委員（愛知学泉短期大学准教授）
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員）
葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学非常勤講師）
神谷 良夫 委員（市民公募委員）
三井 節代 委員（市民公募委員）

(2) 欠席委員

三矢 勝司 委員（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた
事業推進マネージャー）

4 事務局職員の職氏名

中村耕（社会文化部長）、加藤恭典（生涯学習課長）、丸本洋乃（同課副課長）、
鈴木智（同課総務企画係長）、太田隼平（同課総務企画係主事）、
谷端健司（中央図書館長）、大村しのぶ（同館副館長）、杉山優樹（同館総務係長）、
天野幸枝（同館資料提供サービス係長）

5 傍聴者等

0名

6 開会挨拶

委員長挨拶

社会文化部長挨拶

（内容省略）

7 議題

「(1)昨年度の事業報告」と「(2)今年度の事業予定」について、資料1及び資料2を用いてまとめて事務局から説明を行った。

<以下、各委員の意見等>

委員：重点施策の中に今回報告がなかったものについてはどうなっているのか

事務局：今回は令和4年度に実施したものと令和5年度に実施予定であるものについて報告している。重点施策の中で今回説明しなかったものについてはこれから検討、着手をしていきたいと考えている。

委員：基本施策1－1取組1について成果指標の①から④の数字は何を指しているのか。

事務局：個別施策に記載されている番号に対応している。

◆施策1 多様な学習・交流機会の提供

・ライフスタイルに沿った生涯学習の充実

委員：成果指標の令和3年度、令和4年度は実績、令和5年度は目標値という認識で良いか。

事務局：その認識で良い

委員：講座開催数について、令和5年度の指標が減っているのはなぜか。

事務局：市が行う講座はあくまで学びのきっかけづくりであるため、同じ人が同じ講座を何度も受講するというのは取組みの目的からすれば望むところではない。そのため、令和4年度の講座一つ一つを精査し、初めて受講する人が多い講座のみ実施するように変更した。

・すべての人が学びやすい学習機会の充実

委員：重点施策に障がいのある方と記載があるにもかかわらず、知的障がい者のみに絞った理由は何か。

事務局：生涯学習手帳でみると例えば視覚障がい者であれば点字を用いて手帳を作成する必要があり、同じものを作ろうとすると莫大なページになってしまう。今回は着手しやすいという観点で知的障がい者向けの手帳を作成した。

委員：手帳にこだわる理由は何か。全ての障がい者が学びたい、利用したいときに利用できるサービスについて重きを置くべきである。

事務局：生涯学習課としては知的障がい者向けに手帳を作成したが、中央図書館ではバリアフリーサービスを実施している。耳で聞く資料、録音テープや点字図書等用意している。また、視力が弱い方向けに拡大鏡を準備するなど障がい者の学習支援を行っている。

委員：図書館と生涯学習課とではスタンスが違うのか。

事務局：施策として実施していることが違うということであってスタンスの違いではない。

委員：SDGsにもある誰一人として取り残さないという観点が今後の課題になってくる。知的障がい者に限らず、様々な障がいを持った方が学び続けられる環境を作ることが重要である。手帳だけに限らず、すべての人の学習支援を取り進めていく様に検討してほしい。

委員：手帳を渡すことが目標になってしまっているように見える。どう活用されているのかをアンケート等でヒアリングしていけたら良いと思う。

事務局：福祉団体とも調整しながらより良いものにしていく。

委員：どこまで活用されているかというところも含めて評価対象にしていただければこの取り組みの質が上がるのではないかと考える。

◆施策2 市民が利用する学習施設の充実

・「知の拠点」としての図書館の充実

委員：相互貸借の成果指標について令和5年度の目標値が令和3年度と令和4年度の実績の間の数値で設定されているのはなぜか。

事務局：昨年度は少し縮小気味であったため無理のない数値を目標にした。

委員：令和4年度が令和3年度と比較すると実績が下がっている理由は何か。

事務局：しっかりとした理由になるかはわからないが、令和3年度は外出制限もあり中央図書館から相互貸借する人が多かったのではないかと考える。

委員：そのあたりの分析をはっきりさせた方が図書館の利用者の増加につながると考える。今後は検討していただきたい。

委員：相互貸借の数が増えたか減ったかという観点ではなくどのような本にニーズがあるのかというところに重きを置いてほしい。

委員：相互貸借はその図書館にどれくらいの本があるのかというところより、利用率に比例してくるところがある。どんなに本をたくさん入れたとしてもニーズが増えていくことが大切だと思うので一つの数値として大切にしてほしい。

委員：相互貸借制度を知らない人も多いと思うので、周知をもっとしてほしい。

事務局：図書のリクエスト制度において、購入できないものは相互貸借も可能であるとお知らせしている。こうした方法のほか資料の充実も考えながら相互貸借の周知について検討する。

・ICTを活用した多様な学習機会の提供

委員：図書館を使いたくても使えない、足を運びにくいかたに向けたサービスを充実させた方が良い。特に障がい者向けの読み上げソフト等、電子図書も含めすぐに取り掛かるべき。

事務局：現行のバリアフリーサービスの周知も行いながら、今後検討する。

◆施策3 情報提供・相談支援の充実

・情報提供・広報の充実

委員：講座の申込について電子申請及びメールでの申込の受付を開始したが、窓口や電話と併用しているのか。

事務局：している。

委員：そのほうが良い。高齢者だと電子での受付のみだと難しいため引き続き窓口での申込も可にしていきたい。

委員：令和5年度の講座体験会が無いのはなぜか。

事務局：昨年度の実績踏まえ、ほかに重点施策で着手できていない箇所に尽力したいという考えである。

委員：周知に時間がかかるのは当たり前で、単発で実施して利用が少ないからやめるのではなく、PRしながら継続をしてほしい。

委員：講座を岡崎市全体に広めていくためには体験会は必要なのではないかと。せっかく令和4年度には11講座あったものを令和5年度に無くしてしまうのはいかがかと思う。

事務局：いろいろな事業を組み立てる中で優先順位をつけて実施を検討していきたい。

委員：人員が限られているのであれば、市全体で取り組むべきでは？

委員：実際体験会はやってみてどうだったのか。

事務局：11講座やったが平均で参加者が3人であり、1人しか来なかった講座もあれば一方で7人来た講座もある。

・学習相談・支援の充実

委員：レファレンスサービスの利用促進について成果指標をどう設定したのか。

事務局：ここに記載がないが令和2年度の実績が一般609件、郷土が95件であった。令和3年度が突出して多いため目標としては現実的な数値とした。

委員：令和3年度が突出して増えているのはコロナとは関係ないのか。

事務局：「どうする家康」関連のレファレンスが多い時期があったのでそれが関係しているかもしれないが、詳細な分析まではしていない。

委員：できればもっと分析も行いながら、レファレンスサービスの広報をしっかりとっていただきたい。

施策4 地域における生涯学習の促進

・地域に関する情報提供・学習に推進

委員：「どうする家康」が放送されている今年度こそ歴史講座を開催するべきではないのか。

事務局：商工会議所や観光推進課など市の他部署が講座を開催しており、生涯学

習課で同様の講座を開催する意義が薄いと判断した。

委員：令和4年度の実績を受けて生涯学習課で実施を考えるべきだったと思う。

委員：生涯学習はいろいろな分野にまたがるので全庁的に取り進めていく必要がある。市全体で取り組んでいる実施内容を記載してはどうか。他の部署等と連携するなどして生涯学習課も講座を開催した方が良い。

委員：地域に関する情報提供という部分で市内大学とタイアップして専門的な講座を実施することはできないか。

事務局：それぞれの大学で強みがあると思うのでそれも踏まえて市民に有益な講座を提供できれば良いと考える。

委員：実施予定なしという項目について、施策に挙がっているにも関わらず実施予定なしと書かれてしまうと評価のしようがないため、「令和3年度、令和4年度の実績を踏まえて令和5年度はこうする」といった前向きな書き方にしていきたい。

事務局：記載内容について再度検討する。

◆施策4 地域における生涯学習の推進

・地域学習拠点の充実

委員：職員全体で図書館司書資格などの資格を有する人はどれくらいいるのか。また、契約形態の仕様に含まれているのか。

事務局：半数以上が有している。業務委託契約の仕様に含まれている。

委員：職員の専門性は人々の学びに大きく関わることであるため、資格の取得の支援あるいは研修の充実を図ってほしい。

◆施策5 生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり

・関係機関との連携による推進体制の充実

委員：りぶら講座の講師はどれくらいいるのか。

事務局：講座の数だけみえると考えていただいて良い。

委員：市民が学ぶだけでなく、学んだことを活かす場面として重要であるため

今後より充実していけば良いと考える。

委員：図書館ボランティアのように、行政だけではなく市民とも連携して生涯学習を推進していくべきである。先ほどの職員の育成と同様に研修等の充実を引き続き図っていただきたい。

委員：どこの大学と実施するのは決定しているのか。

事務局：検討中である。

委員：市内大学とは具体的にどこを指しているか。

事務局：愛知学泉大学、岡崎女子大学、愛知産業大学、人間環境大学である。

委員：分野も富んでおり、様々なニーズに応えられると期待できる。今後広がって見込みはあるか。

事務局：今年度はどこかと連携して講座を実施して感触を掴んで広げていけたら良いと考える。

委員：市内大学は大学懇話会として実施していることもあり、大学側の負担が大きすぎると感じる。岡崎市が大学懇話会と連携し、講座を統一して生涯学習課で宣伝するなどした方が良いと考える。今は大学個別に聞いているのか。

事務局：今は大学個別にあたっている。大学懇話会との連携については各大学の事情もあるため、それも踏まえて連携したいと考える。

・生涯学習を支援する人材の育成等

委員：市民講師向けの研修会では、話し方の進め方のみではなく、講座のタイトルの付け方など幅広く出来たら良いと考えるその他、人気の講座の講師には何らかの肩書を付与するとか、参加意欲を促すインセンティブ、プロデュースする工夫も必要だと思う。

委員：どのような分野がどのような層に需要があるのかというところを分析してほしい。

事務局：承知した。

8 連絡事項
特になし。

－ 会 議 終 了 －